

Ⅱ 最近の世界における食料需給の動向

Ⅱ-1 穀物等に関する国際価格の動向

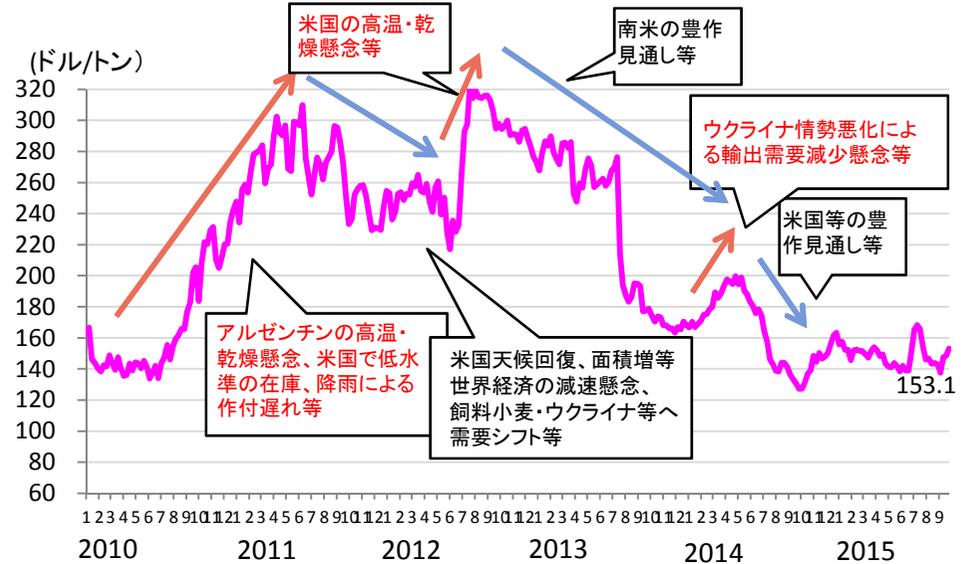
【図1】小麦価格の推移

直近では、高騰前の2006年8月と比べ1.3倍、史上最高値の2008年2月と比べ0.4倍



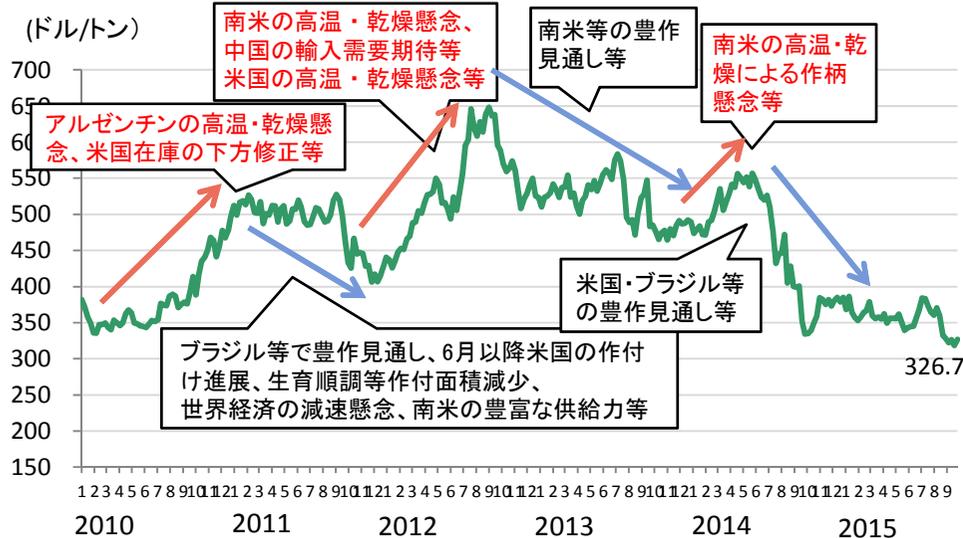
【図2】とうもろこし価格の推移

直近では、高騰前の2006年8月と比べ1.7倍、史上最高値の2012年8月と比べ0.5倍



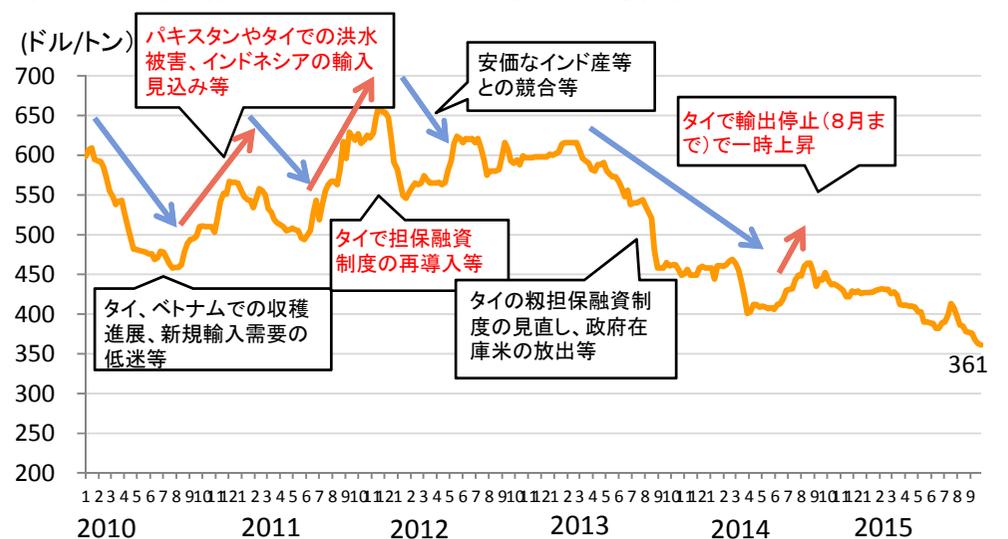
【図3】大豆価格の推移

直近では、高騰前の2006年8月と比べ1.6倍、史上最高値の2012年9月と比べ0.5倍



【図4】米価格の推移

直近では、高騰前の2006年8月と比べ1.1倍、史上最高値の2008年5月と比べ0.3倍



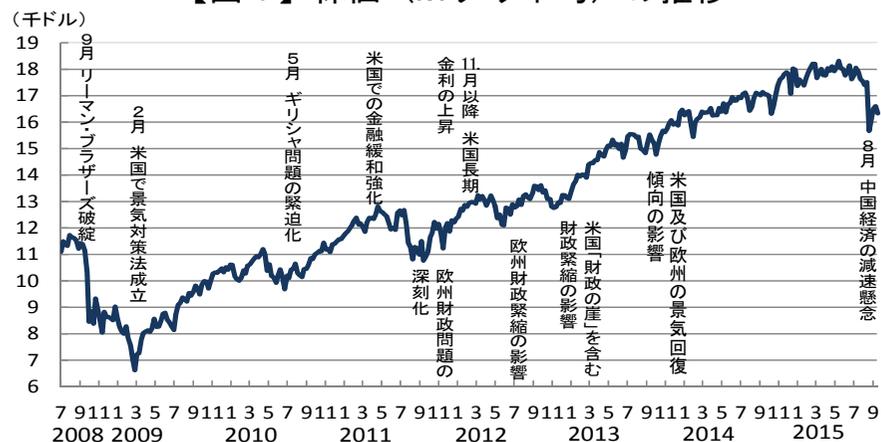
注：小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ商品取引所の毎週金曜日の期近価格。米は、タイ国家貿易取引委員会公表によるタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

高騰前の価格は、2006年8月25日の価格（ただし、米は2006年8月30日の価格）。最高の価格は、小麦2008年2月27日、とうもろこし2012年8月21日、大豆2012年9月4日、米2008年5月21日。

Ⅱ-2 穀物市場を取り巻く各種経済動向

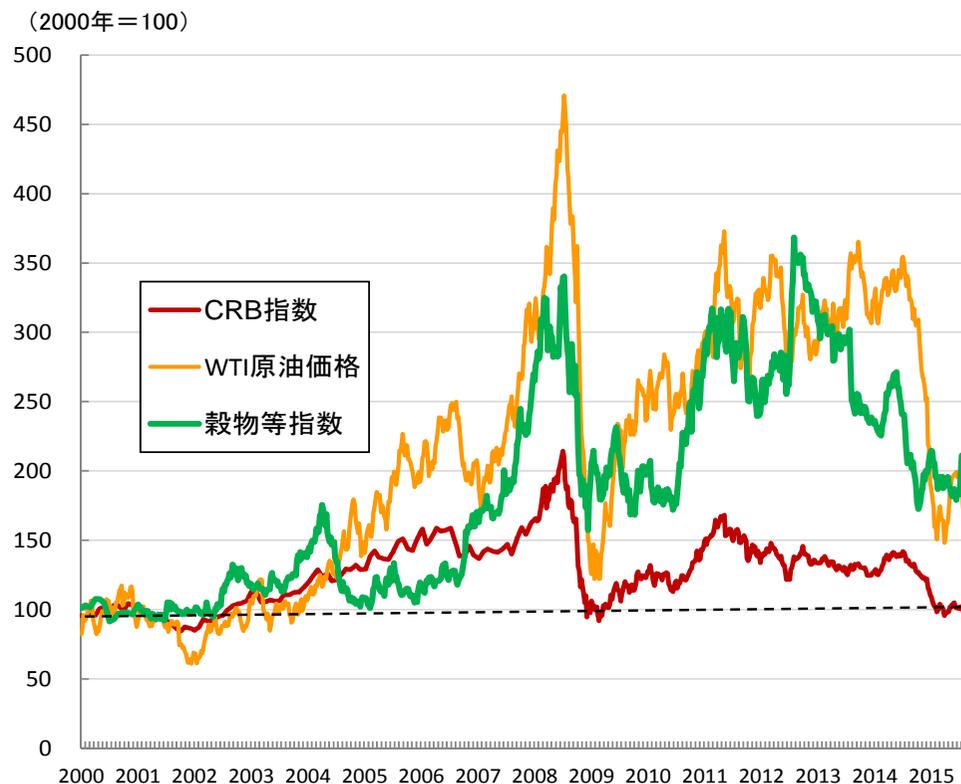
- 2007年8月以降、サブプライムローン問題に関連した欧米の金融市場の混乱が続き、2008年9月の米国大手投資銀行の破綻を契機として「世界金融危機」が発生。投機資金の急激な流出、世界的な不況による消費全体の減退懸念などにより、商品価格が大幅に下落。
- その後、2009年2月頃に底を打った後、商品価格は景気回復への期待感等から上昇していたが、2011年半ば以降、世界経済の減速に伴い横ばいで推移していたが、2014年に原油価格の影響等により下落。原油価格は2009年から上昇し高水準で推移していたが、2014年7月以降に中国等の景気減速、シェールオイルの堅調な生産、OPECの生産目標維持による需給の緩和で下落。株価(NYダウ)は、米国の景気回復等から上昇傾向であったが、2015年8月に中国等の景気減速懸念から下落。

【図1】株価（NYダウ平均）の推移



出典：ロイターES時事 注：NYダウ工業株30種平均株価の毎週火曜日の終値である。

【図2】商品指数(CRB指数)、原油価格等の推移



出典：ロイター/ジェフリーズ、ロイターES時事、U.S. Energy Information Administration

注：ロイター/ジェフリーズCRB指数は、毎週金曜日の指数。WTI原油価格は週平均価格。穀物等指数は、シカゴ商品取引所3商品価格(小麦、とうもろこし、大豆)を平均して指数化。

【図3】ドル指数とCRB指数の推移



出典：ICE「US Dollar Index®」
ロイター/ジェフリーズ

注：ICE(インターコンチネンタル取引所)ドルインデックス先物の毎週金曜日の終値である。CRB指数は、図2注参照。

Ⅱ-2(参考) 穀物市場における投機家による先物取引の推移

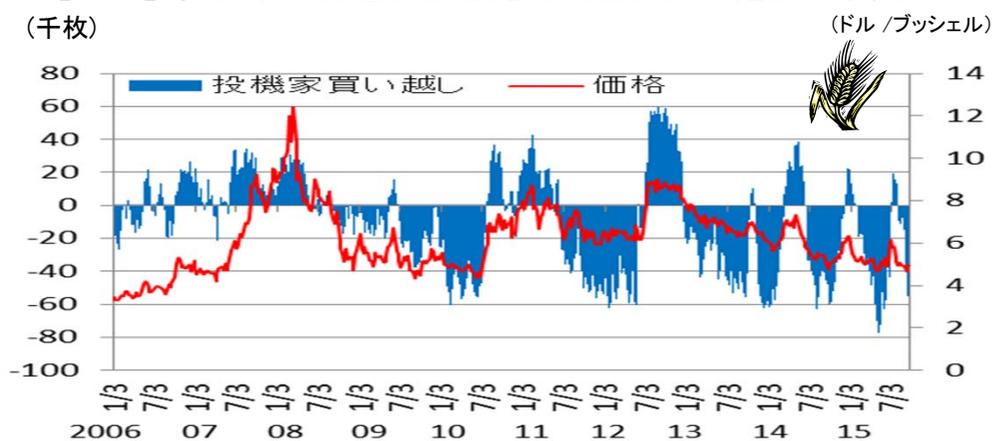
- シカゴ商品取引所(CBOT)における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移。投機家による買越枚数は、小麦・とうもろこし・大豆ともに前月末と比べ減少。

【図1】 投機家の穀物等の取引総枚数(注)の推移(CBOT)



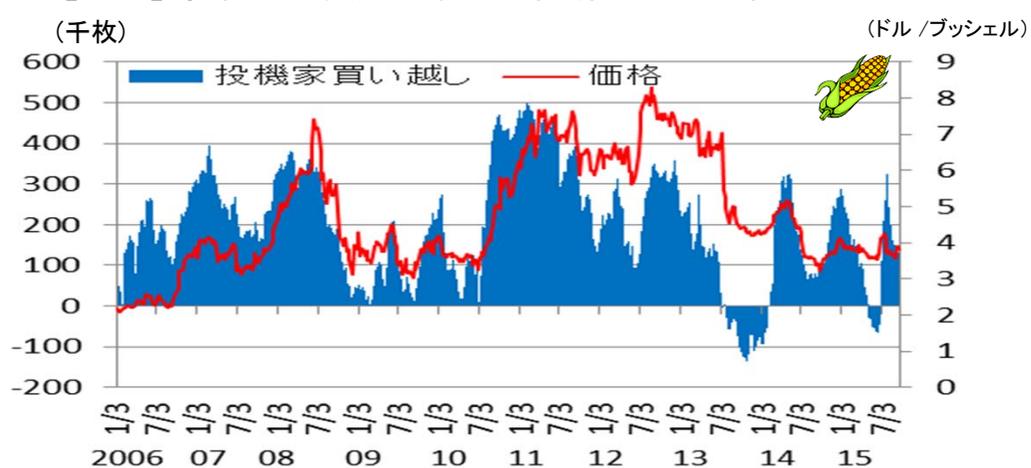
資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成
注：取引総枚数は、投資家(NonComm)による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図2】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移(小麦)

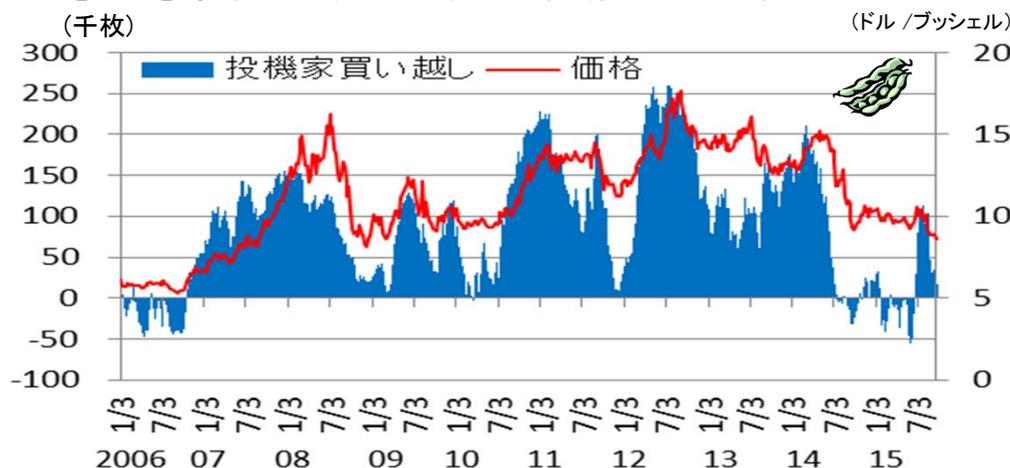


資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2015年9月第4週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

【図3】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移(とうもろこし)



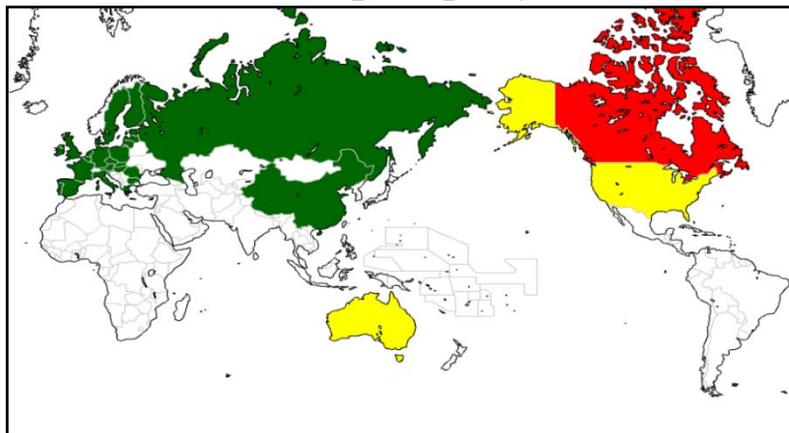
【図4】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移(大豆)



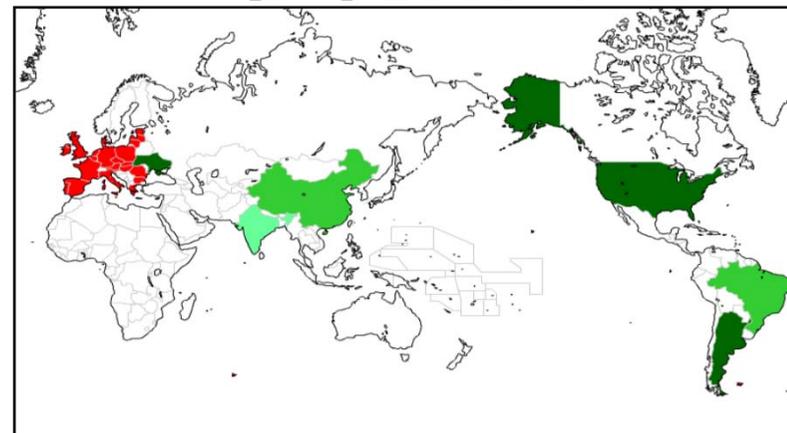
Ⅱ-3 穀物等の主要生産国の作柄(単収の過去5年平均との対比、2015年9月時点)

2015/16年度の主要生産国における穀物等の作柄については、【小麦】EU、中国及びロシアは良、米国及び豪州はやや不良、カナダは著しい不良の見込み。【とうもろこし】米国、アルゼンチン及びウクライナは良、中国及びブラジルはやや良、インドは平年並み、EUは著しい不良の見込み。【米】ミャンマーは良、中国及びベトナムはやや良、インドネシア及びバングラデシュは平年並み、インドはやや不良、タイは不良の見込み。【大豆】米国、アルゼンチン及びパラグアイは良、ブラジルはやや良、中国及びインドは平年並みの見込み。

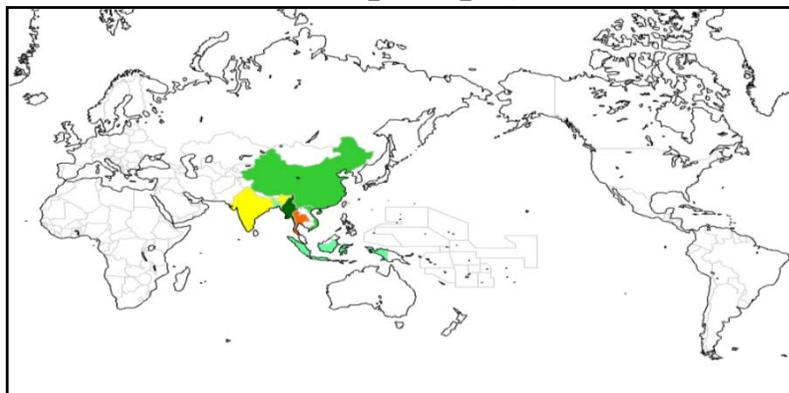
【図1】小麦



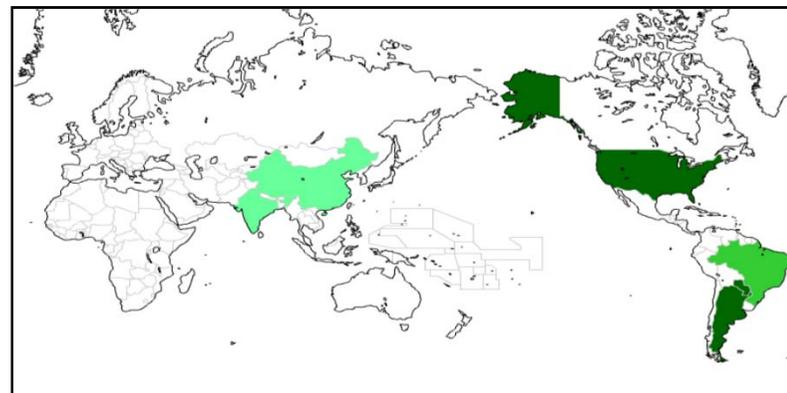
【図2】とうもろこし



【図3】米



【図4】大豆



単収の過去5年平均との対比

- 106以上 (良)
- 102以上～106未満 (やや良)
- 99以上～102未満 (平年並み)
- 95以上～99未満 (やや不良)
- 91以上～95未満 (不良)
- 91未満 (著しい不良)

※ 気象庁は、2015年9月10日付けのエルニーニョ監視速報(No. 276)で、「エルニーニョ現象が続いている。今後、冬の間はエルニーニョ現象が続く可能性が高い。」と発表した。

資料：米国農務省「P S & D」(2015.9)を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位7カ国を対象(2015年5月時点)。作柄概況は過去5年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収(見込み)の比較により区分。なお、EU(欧州連合)の加盟国については、EUとして一括区分。

Ⅱ-4 中国の旺盛な穀物等の輸入需要

- 大豆の輸入量は、搾油需要等の増大により増加。2015/16年度の輸入量は、前年度を上回る7,900万トンと予想されるが、世界全体に占める輸入シェアは64%と前年度並みの見込み。
- とうもろこしは、飼料需要等の増大により、2009/10年度以降純輸入に転じた。2013年11月より未承認遺伝子組換え種問題で米国産の輸入を拒否したが2014年12月に再開。2015/16年度の輸入量は、前年度を下回る300万トンの見込み。
- 小麦の輸入量は、2013/14年度は製粉用小麦の国内供給ひっ迫に伴い急増したが、2014/15年度は国内需給の緩和により減少した。2015/16年度の輸入量は、前年度を上回る220万トンの見込み。

【表1】大豆主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

| | | 2012/13 | 2013/14 | 2014/15 | 2015/16 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|
| 中国 | 輸入量 | 59.9 | 70.4 | 77.0 | 79.0 |
| | シェア | 62.4 | 63.2 | 64.3 | 64.1 |
| EU | 輸入量 | 12.5 | 13.0 | 13.5 | 13.5 |
| | シェア | 13.1 | 11.7 | 11.2 | 11.0 |
| 日本 | 輸入量 | 2.8 | 2.9 | 2.9 | 2.9 |
| | シェア | 3.0 | 2.6 | 2.4 | 2.3 |
| 世界全体 | 輸入量 | 95.9 | 111.3 | 119.8 | 123.2 |
| | シェア | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

資料:USDA「PS&D」(2015.9)

【表2】とうもろこし主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

| | | 2012/13 | 2013/14 | 2014/15 | 2015/16 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|
| 中国 | 輸入量 | 2.7 | 3.3 | 5.5 | 3.0 |
| | シェア | 2.7 | 2.6 | 4.5 | 2.4 |
| EU | 輸入量 | 11.4 | 15.9 | 9.0 | 16.0 |
| | シェア | 11.4 | 12.8 | 7.4 | 12.9 |
| 日本 | 輸入量 | 14.4 | 15.1 | 14.7 | 14.8 |
| | シェア | 14.4 | 12.2 | 12.1 | 12.0 |
| 世界全体 | 輸入量 | 99.8 | 123.9 | 121.6 | 123.7 |
| | シェア | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

資料:USDA「PS&D」(2015.9)

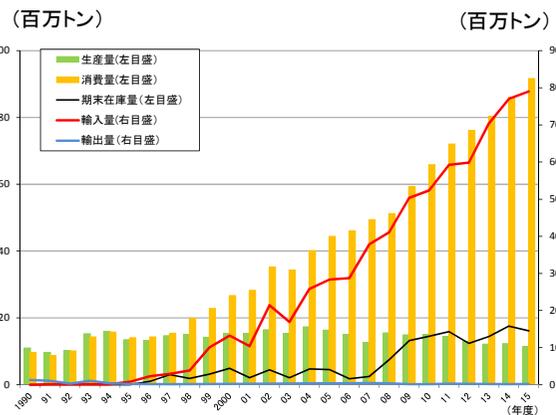
【表3】小麦主要輸入国の輸入量とシェアの推移

(輸入量：百万トン シェア：%)

| | | 2012/13 | 2013/14 | 2014/15 | 2015/16 |
|------|-----|---------|---------|---------|---------|
| 中国 | 輸入量 | 3.0 | 6.8 | 1.9 | 2.2 |
| | シェア | 2.0 | 4.3 | 1.2 | 1.4 |
| エジプト | 輸入量 | 8.3 | 10.2 | 11.1 | 11.5 |
| | シェア | 5.7 | 6.4 | 6.9 | 7.4 |
| 日本 | 輸入量 | 6.6 | 6.1 | 5.9 | 5.8 |
| | シェア | 4.5 | 3.9 | 3.7 | 3.7 |
| 世界全体 | 輸入量 | 145.4 | 158.4 | 159.6 | 156.2 |
| | シェア | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

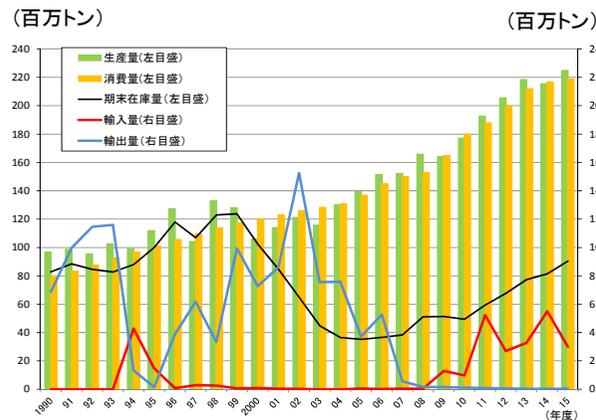
資料:USDA「PS&D」(2015.9)

【図1】中国の大豆の需給の推移



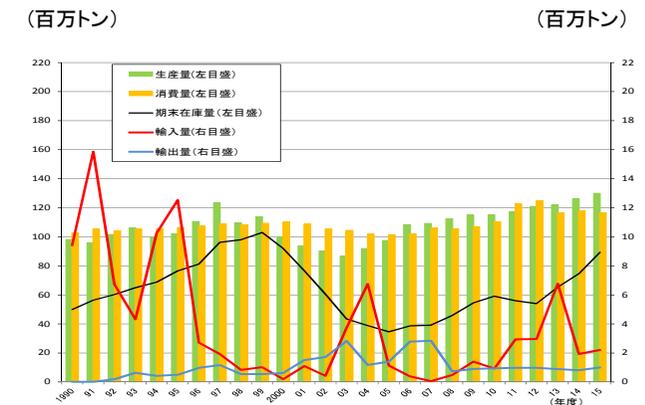
資料:USDA「PS&D」(2015.9)を基に農林水産省にて作成

【図2】中国のとうもろこしの需給の推移



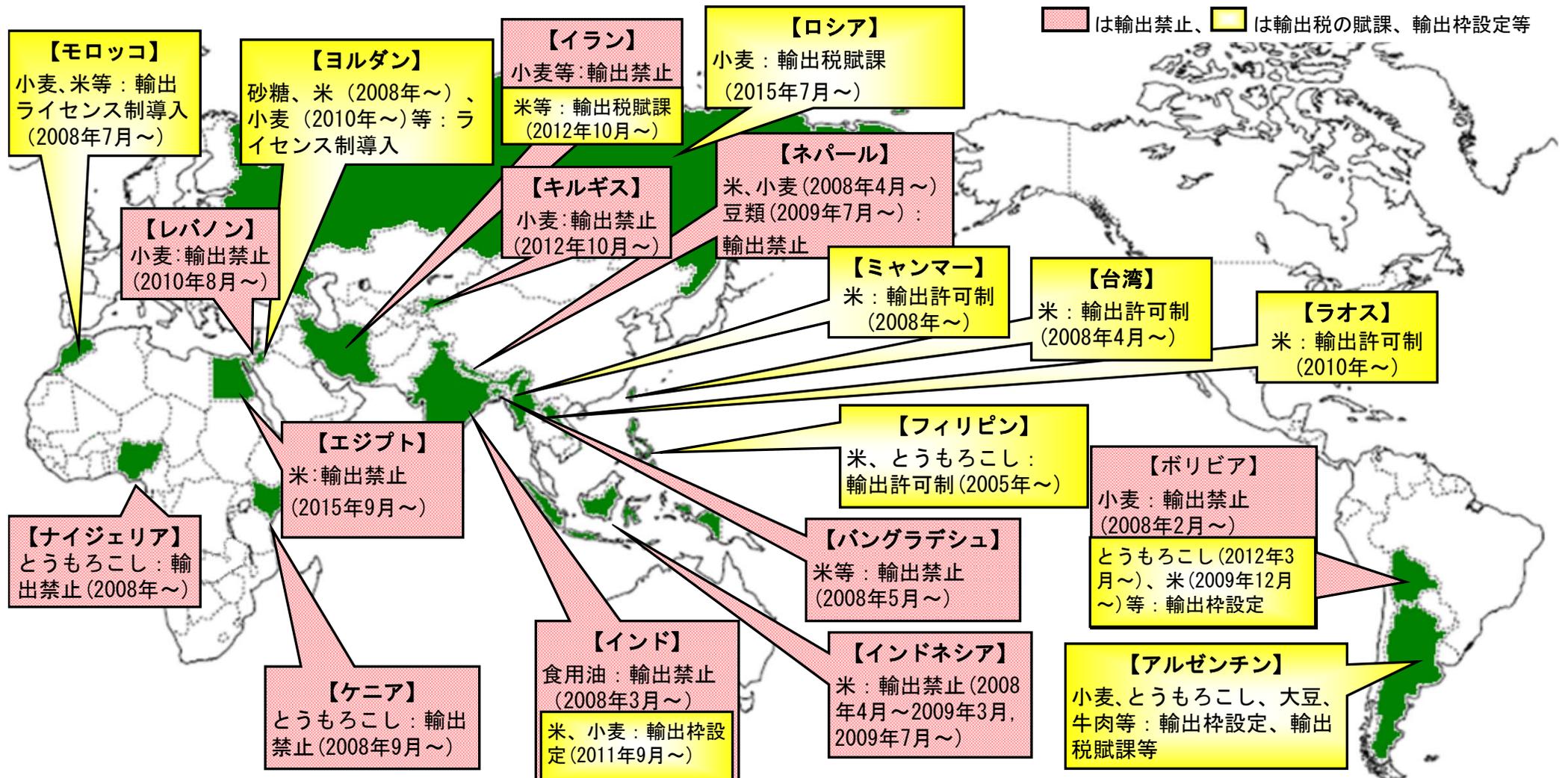
資料:USDA「PS&D」(2015.9)を基に農林水産省にて作成

【図3】中国の小麦の需給の推移



資料:USDA「PS&D」(2015.9)を基に農林水産省にて作成

Ⅱ-7 (参考) 農産物の輸出規制の現状



資料：農林水産省作成 (2015年9月15日現在)

- 注：過去に実施された措置
- ① 輸出禁止：カンボジア (コメ)、ベトナム (コメ)、ラオス (コメ)、インド (コメ、小麦、とうもろこし)、パキスタン (小麦)、アルゼンチン (小麦等)、ブラジル (政府米)、ボリビア (とうもろこし、コメ等)、エクアドル (コメ)、ホンジュラス (豆類、とうもろこし)、ロシア (小麦等)、カザフスタン (小麦)、セルビア (小麦等)、ベラルーシ (菜種等)、モルドバ (小麦)、ブルキナファソ (穀物)、コートジボワール (カカオ)、エチオピア (小麦等)、ギニア (農林水産物)、マラウイ (とうもろこし)、タンザニア (穀物、砂糖)、ザンビア (とうもろこし)
 - ② 輸出税賦課：ロシア (小麦、大麦)、ウクライナ (小麦等)、ベトナム (コメ)、キルギス (小麦等)、中国 (小麦、大豆、コメ等)、アルゼンチン (乳製品)
 - ③ 輸出枠：カンボジア (コメ)、ウクライナ (小麦、大麦等)